



## 交通環境労働政策チーム

# 常磐線開通区間を踏査



3月14日、JTSUの「交通環境労働政策チーム」2名で、常磐線運転再開区間の「ヴィレッジ駅、富岡～竜田間の津波避難区間、富岡駅、夜ノ森駅、大野駅、双葉駅、浪江駅を訪れ、現地の状況調査をおこないました。

放射線量は、最も高いところで約 $3\mu\text{Sv}$ あり特定復興再生拠点に指定されている場所でも自然界の10～300倍の放射線量が計測されました。



各駅の放射線量 (単位： $\mu\text{Sv/h}$ )
富岡駅→0.217
夜ノ森駅→0.222
双葉駅→0.086



沿線状況では、大野～双葉駅間上り線の砂利を撤去しアスファルトで固めた「避難保守用通路」(左写真)が整備されるなど、ハード面における異常時対策は徐々に進みつつあります。しかし、運転再開区間の駅は「無人駅」であるため、災害発生時や異常時における旅客誘導・避難に対する課題も見えてきました。

常磐線の全線開通は組合員・利用者にとって大変喜ばしいことですが、原発事故で被災した「高線量区域」を列車が走行する以上、内部被ばくを含めた組合員や利用者の健康管理の視点で、地域や利用者に放射線量を「見える化」するリスクコミュニケーションの重要性や、万が一列車が停止してしまった時の対応(自然災害、人身事故、異音感知含め)など、「安全」と「健康」を守るための具体策を発信し続けていくことが求められます。JTSUは安全な鉄道運行の実現と、組合員と利用者の命と健康を守るために、今回の踏査状況を踏まえ関係機関と連携をとり運動をつくり出していきます。